

夏秋なすの優良台木品種

1. 試験のねらい

現在、夏秋なす栽培では青枯病などの土壌病害対策として抵抗性台木トルバムビガーによる接ぎ木栽培を行っているが、トルバムビガーを台木として用いても青枯病が発生し問題となっている。そこで、近年育成された台木品種についてその生育特性及び青枯病抵抗性について検討した。

2. 試験方法

試験は場内露地圃場及び現地圃場で行った。供試台木品種はカレヘン、台太郎、トレロ、トルバムビガーを、穂木品種に千両2号を用いた。台木播種はトルバムビガーを平成8年2月16日、カレヘン、トレロを3月5日、台太郎を3月19日に行い、穂木は千両2号を3月19日に行った。接ぎ木は4月24日に幼苗接ぎ木で行い、6月7日に畝幅200cm×株間70cmに定植し主枝4本V字仕立てとした。施肥は緩効性肥料(180日タイプ)を用い、窒素3.0、リン酸3.6、カリ3.0kg/aとした。収穫は、80~100gを目安に行い、収穫後切り戻し剪定をした。収穫調査は、9月30日まで行った。現地は、現地慣行栽培とした。また、青枯病抵抗性について、幼苗検定を行った。

3. 試験結果及び考察

(1) 定植時の苗の大きさは草丈25cm前後で品種間での差は認められなかった。(データ省略)

(2) 初期生育は、トレロ及びカレヘンがトルバムビガーより優れ、台太郎は同程度だった。

定植1ヵ月後の生育は、各品種ともトルバムビガーと大差は認められなかった。茎径はカレヘンがやや細い傾向であった。後期生育は、各品種ともトルバムビガーよりやや弱かった(表-1)。

(3) 7月の収量は、台太郎、カレヘンが優れ、8月の収量は台太郎、トレロでやや劣ったもののトルバムビガーとほぼ同程度であった。9月の収量は、台太郎、カレヘンで優れ、トレロがトルバムビガーと同程度だった。総収量は台太郎、カレヘンがトルバムビガーに比べ多収であったが、トレロは同程度であった。上物率は各品種とも90%前後で優れた。(表-2)。

(4) 現地における生育は、主茎長、葉の大きさ、茎径は各品種ともトルバムビガーと差は認められなかった。一方、定植1ヵ月までの茎径は、台木間に大差は認められなかったが、定植2ヵ月以降カレヘンの茎径がやや細く推移した。青枯病の発生は各品種とも認められなかった(表-3)。

(5) 県内3カ所の青枯れ病菌群の幼苗検定を行った結果は、各地とも第IV菌群と推察され、第IV菌群の抵抗性は台太郎とカレヘンがトルバムビガーに比べ強かった。(表-4)。

4. 成果の要約

トルバムビガーに比べ、カレヘン及び台太郎は青枯病抵抗性(第IV菌群)が強い台木であり、多収で有望な台木と考えられた。

(担当者 野菜部 堀江収一)

表一 1 生育 (場内)

No.	品 種	6月14日調査					7月9日調査					
		主茎長 (cm)	最大葉		茎 径 (mm)	展開葉	主茎長 (cm)	最大葉		茎 径		
			たて	よこ				たて	よこ	接ぎ木部	分枝部	
1	カレヘン	53.8	24.7	17.3	7.6	9.3	96.4	28.0	18.6	12.6	13.5	
2	トレロ	52.4	27.6	19.0	8.6	9.9	95.6	29.3	19.4	14.0	13.6	
3	台太郎	46.7	25.3	18.1	8.3	10.0	94.4	28.5	19.9	13.9	14.9	
4	トルバムビガー	53.8	28.5	19.5	8.3	9.6	96.3	29.5	20.1	14.6	14.0	

表一 2 後期生育及び月別収量

No.	主茎長 (cm)	茎 径 接木	節 間 長			月 別 収 量 (個/株)				
			1~2	2~3	3~4	7月	8月	9月	計	上物率(%)
1	214	18.0	12.6	12.5	16.0	16.5	38.3	37.0	91.8	90.6
2	215	22.8	13.6	13.3	16.3	13.7	35.8	35.9	85.4	89.1
3	210	19.9	11.4	13.9	15.4	16.9	35.4	40.0	92.3	89.7
4	223	22.9	14.3	13.8	16.7	14.7	37.6	33.4	85.7	89.5

注) 収量は、株あたりの個数

表一 3 生育 (現地)

No.	7月8日調査					8月12日調査			9月12日調査		
	主茎長 (cm)	最大葉(mm)		茎 径(mm)		主茎長	茎 径(mm)		主茎長	茎 径(mm)	
		たて	よこ	接木部	分枝部		接木部	分枝部		接木部	分枝部
1	101	30.4	19.0	14.1	15.6	162	17.6	20.0	161	18.6	22.4
2	105	31.9	12.3	15.2	16.2	169	20.0	22.1	158	21.6	25.1
3	102	32.7	20.8	15.8	17.6	168	19.1	22.2	158	19.6	24.0
4	101	31.3	19.7	15.5	16.6	163	20.4	22.0	154	21.7	24.6

表一 4 抵抗性台木の青枯病IV菌群の発病度

採集地\検定品種	台 太 郎	カレヘン	ト レ ロ	トルバムビガー
真 岡	47	53	100	87
今 市	33	58	100	100
馬 頭	58	67	100	100

※程度別発病指数 0 : 無発病、1 : 導管部の褐変、2 : 萎ちょう、3 : 枯死

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{程度別発病指数} \times \text{その程度の株数})}{3 \times \text{供試株数}} \times 100$$